

委嘱状の交付

1 開会

2 教育長あいさつ

大変お忙しい中、そして暑さの厳しい中、参加くださいますありがとうございます。
さて、本日は第3回の河北町立小中学校整備委員会です。大きな狙いとしては、前回皆様からいただいたご意見をもとに、候補地と整備方法を検討し絞り込むこと、そして整備に対する基本的なコンセプトの検討です。いよいよ具体的な整備場所、計画地における利用方法、さらには整備スケジュールについて、後ほど説明がありますので、基本構想・基本計画作成に向けて、忌憚ないご意見を伺えればと思っています。子どもたちにとって、よりよい教育環境を構築するという目標のもと、長期的展望に立つての学校づくりのビジョンとなりますので、よろしくお願い申し上げます。

3 委員長あいさつ

山形県の人口が100万人を割ったということも我々にとって大きなことかと思っています。通過点かもしれませんが、関係がまったくないとはいえない問題ではないかと思います。我々の課題は、人口減少社会の中で、町づくりをどう行っていくかというところにあるかと思っています。そのような中で、私たちが担っている河北町の学校整備のあり方については、町民の皆さんも非常に注目しているのではないかと考えているところです。先ほどの話にもありました通り、計画地と整備方法の検討と整備のコンセプトの検討ということです。第2回委員会では、様々な意見を出していただきました。今回は、具体的に絞っていくこととなります。皆様の忌憚のないご意見をお願いします。

4 協議

(事務局) 先進地察報告

(1) 計画地・整備方法の検討について

(計画支援) 資料 No.1 の建設地・整備方法の検討について説明

(委員長から)

具体的な建設地と整備方法について説明をいただきました。議論に入る前に、第2回委員会での意見①から⑦までをもう一度、確認をお願いしたいと思います。

① まずは小中一貫型小学校・中学校として計画するということ。義務教育学校ではないということでもあります。

②それから校地面積が十分確保できるものでなければならない。既存の学校敷地に面積をあてはめた資料が前回提示されました。谷地中部小は面積はあるけれども、いろいろな要件が満たされる必要があるということで、残るは中学校敷地か新規の用地であるということでした。

③令和13年度開校も、絶対的な内容であるということでした。④から⑥についても確認させていただいた内容でございます。

これらを前提として、今日はさらに進めていきたいということです。候補地としては中学校敷地もしくは新規取得用地ということですが、その場合、河北中学校については A-1 タイプか A-2 タイプか、さらに A-2 タイプでも既存校舎を使いながらの工事か、仮設校舎を使いながらか、もう1つが B タイプの新規取得用地です。今日はこのところを明確にしていきたいと思います。

(委員から)

① について、小中一貫型小学校・中学校はよいのですが、小学校と中学校が離れていても小中一貫校になっている事例もあると思います。ですから、必ずしも施設の中に小学校と中学校がなければいけないということではなく、場所が違ってよいのではないかと思います。谷地中部小などはまだ新しいですし、活用ができるところを有効活用して、小学校と中学校は別につくって、1 か所だけに集中しない方がよい面もあるのではないかと思いますのですが、①の場合には同じ敷地ということなののでしょうか。

(教育長から)

あり方検討委員会の中で、また地域説明会をしている中で、小学校を1校にするのは理解できるが、既存の小学校に統合になるのは嫌だという意見も多かった。そういうことを踏まえて、いわゆる施設一体型の小中一貫型小学校・中学校とすることに決めた経緯があります。

(委員長から)

質問の中に、一体型と分離型のお話がありました。委員の中に分離型の小中一貫校を経験されてきた方がおられますので、分離型のメリット、デメリット、小中一貫校についての今後の方向性を含めながら参考まで意見をいただきたいと思います。

(委員から)

私は分離型の小中連携教育を進めている小学校に4年間勤めていました。分離型のメリットとして、小学校文化と中学校文化を明確に持てるということがあります。

実際、小学校らしさ、中学校らしさは出せていたと思います。でも、小中学校で合同授業研究会を行う際や、教職員の交流などを行う際に、分離型は距離的な面でタイムロスが多く、なかなか普段から顔が見えにくく、お互いの文化も見えにくいという、心の壁、心の距離があったように私は感じていました。やはり、小中一貫教育を進めていくときには、児童生徒が自由に異学年交流をできる空間があるとよいというのが個人的な意見です。

(委員長から)

これについて、いかがでしょうか。

(委員一同)

〔特に意見なし〕

(委員から)

令和 13 年度開校を優先するとなると、議論するまでもないことになるのではないのでしょうか。令和 13 年度に開校できないのに、なぜ B タイプを持ってきたかということをお聞きしたいです。

(計画支援)

新規取得用地の場合、開校時期が遅れてしまうことは前回も説明しましたが、意見の中では、新規用地を含めてできるだけ広い敷地を選んで建ててはどうかという意見を多くいただいたと思います。可能性を潰してしまうのではなく、開校が遅れることも確認していただくことということで B タイプを残しています。

(委員から)

例えば、皆さん B タイプがどうしてもよいという意見になった場合は？

(委員長から)

令和 13 年度開校は、できるだけ早く、子供たちに負担をかけないかたちで進めるためには最短であろうということを出てきたことだと思います。けれども、敷地の問題からするとずれが生じてくる。例えば A-2 タイプでも完成は令和 13 年度中ですが、開校が翌年度にずれ込んでしまう。だから、どちらを優先すべきか、ということがあると思います。ただ、B タイプの場合、新規用地取得という観点から何か他にデメリットがありますか。

(計画支援)

B タイプのコストイメージでは、約 2.2 倍となっていますが、既存中学校の校舎解体は含めていません。防犯性の観点から、利用しなくなった老朽校舎を町の中心部に残すかというのは課題だと思います。もう一つは農地を取得することになりますので、農地転用が必要となり、排水設備等を新たに整備する他、周辺農地への日影の影響があるなどといったことはデメリットと言えるかもしれません。

(委員から)

どこにしても旧校舎の問題はありますが、土地を取得するという点に関しては周辺農地への影響ということもあります。果たしてスムーズに取得できるだろうか、こじれるとスケジュールが先延ばしになる可能性もあるのではないかと感じます。B タイプは外して令和 13 年度に開校したほうがよいのではないかと、子供たちのためになるべく早く進めるというのであれば選ぶものは少なくしていったほうがよいのではないかと思います。

(委員長から)

この点について、まずは子供たちのことを考えて、できるだけ早くすべきだということから、子供たちにとってよいタイプで行くべきであろうというご意見もあります。

(委員から)

新規取得の候補地は本当に順調な買い取りができるかどうか、先行き不透明かな、と個人的には思います。明確にここを目指すと、はっきりして進めていった方が、町民も安心するし、子供たちもそこに向けて気持ちを 1 つに取り組んでいけるのかなと思います。

(委員から)

A-1 タイプの予算を 1 とした場合のコストとなっていますが、これは河北中学校の今の校舎をそのまま使った場合のことであって、中学校は結構古い建物なので、この先、長く使うということは、ちょっと無理なような気がします。

(計画支援)

中学校校舎の耐力度調査の調査結果から、柱壁といった構造体は、まだ使えるということができています。一方で、増築された棟の接続部、1 階部分で飛び出した部分や底部分で漏水が発生しており、コンクリートが劣化し落下するようなことがあると危険だとも言えます。また、金属部分が錆びているところが見られ、既存校舎を利用するのであれば、一定の改修が必要になると思います。

(委員長から)

いずれは改築しなくてはならない。まずは小学校を建てて、その後、中学校を改築するということなのではないでしょうか。

(計画支援)

現在は、補助金の対象となったときに改築するのを基本として検討しているので、いずれ耐力度調査の結果の数値が下がってくれば、改築するということになり、おっしゃるように小学校を建てて、その後、中学校を改築するということになると思います。

(委員から)

コンセプトの中に、子どもと教職員が地域と活動、児童生徒の交流ということがうたわれています。そうしたときに、やはり A-1 タイプとなったとき、校舎が分かれている小中学校で、交流が日常的に生まれるのだろうかということには、疑問が残るなと思っています。児童生徒の交流や教職員の交流が日常的に生まれやすい校舎であってほしいと思いますので、やはり A-1 タイプというのは賛成できないと個人的に考えます。A-2 のいずれかが妥当なのではないのかなと、やはりコンセプトに沿った校舎であるべきで、形が先で中身をどうするかではなくて、どういう教育を提供するから、こういう校舎だという話にしていけたらよいのかな、というにも思っています。

(計画支援)

2 階部分をつなぐ可能性というのは、渡り廊下のようなものが書かれていますが、校舎自体を 2 階レベルで張り出して、既存校舎の近くまで施設でつなぐということも考

えられます。そのあたりは設計提案だと思います。

(委員から)

財政状況も何も関係ないというように進んでいるのが、どのくらいかかるのか。

(事務局)

具体的な金額の話になると議論が難しくなります。仮の面積計算ですので、具体的な金額をお示ししないように、今回の資料を作成しています。参考までに、近隣の状況を見ますと、近隣町の計画ですと、延べ面積 9200 m²の義務教育学校を建てた時に、55 億から 60 億円ぐらいの事業費と資料にあります。同様に近隣市の統合小学校ですと、9600 m²ほどで 60 億強ということで、公表されております。

(計画支援)

公表されている事業費は計画段階のもので、少し前の事業費です。現在、毎年建設単価が上昇しており、必ずしも標準というわけではないため、だいたいそのくらいのオーダーになるとみていただければと思います。

(委員から)

中学校も建てると 120 億かかるということか。河北町の予算よりも多いというのは大丈夫か。町の財政として、120 億かけられるかどうか、はっきりさせてもらわないといけない。

(事務局)

かなり厳しいと思います。補助金の計算、あるいは起債、これらが入って実質的に持ち出しがどれくらいになるかを計算して、今後の財政計画を立てていく必要があります。それは別途、庁舎内で財政当局と検討したいと考えています。ですので、小中学校をあわせて建てたいということがあったとしても、財政的にどうかということは残りますが、委員会の一つの方向性をつけていただければと思います。

(委員長から)

財政については、我々としても、なんとも言えないところがあります。これはこれからの進め方に委ねるしかないのかなと思いますが、私たち整備委員会としては、ある程度、理想になってしまうかもしれませんが、こういうものが望ましいなということを打ち出して、この方向でぜひやっていただきたいということを、町に強くお願いするというのは、出していかなければならないのではないかなという感じがしています。

(委員から)

A-2-①タイプだと、小学校開校が令和 13 年度中になると思いますが、その場合、入学式はどうなるか。2 学期から一緒になるか。それとも 14 年度から使うことになるか。

(計画支援)

A-2-①タイプは、2 学期あたりであれば、旧校舎の解体が終わっていますが、新校舎はできているので、入学式は 4 月に行うことも可能です。ただ、工事中の環境となるので、騒音等には配慮が必要になります。A-2-②タイプは、新校舎ができていないの

で、年度途中になってしまいます。

(委員長から)

年度途中の完成となると、教員配置を考えると年度初めに開校になるので、どうしても令和14年度開校になってしまう。そうすると、だんだん絞られてくるのではないかと思います。

(委員から)

以前視察に行った学校で、工事がすべて完成していなくて、グラウンドの工事がまだ行われていました。教職員の駐車場が完成していないため、教職員があちこちに車を止めて出勤しなければならず、大変な思いをされているとお伺いしました。ですので、整備が同時に行われている中で、十分に安全を確保すること、教職員に負担を強いることにならないように、駐車スペースはきちんと管理し、子供たちと教職員が不便なく生活を進められるように、配慮いただきながらになっていくのかなと思います。

(委員長から)

できるだけ工事中を避けたほうがよいというご意見かと思います。給食施設は自校炊飯ということが前提ですね。

(計画支援)

給食センターは、複数校の給食を一気につくり配送することでメリットがあります。併設型の小学校・中学校では1カ所に校舎がまとまっているため、校舎内に給食施設を整備するほうが効率的ということで、自校給食で仮設定しています。

(委員長から)

特別教室の数は3室で足りますか。

(計画支援)

山形県の特別支援教室に通う児童生徒の割合で算定すると、小学校で2室、中学校で2室となります。2室では足りないという意見があったため、小学校は2学年に1室ということで、3室を仮設定していますが、基本計画段階での検討事項になります。

(委員長から)

まだ増やす可能性はあるのですね。まず仮置きでということです。

今までの意見から、意見が絞られてきているように思いますが、まず令和13年開校にできるだけするというので、新規取得に関しては委員会としては要望できないこと、校地利用に関しては、A-1タイプ、A-2タイプがありますけれども、予算面の課題もあります。また、将来的に改築するという考え方もあり、果たしてどちらの方がより、私たちとして要望すべきタイプか、もう少し、意見をおうかがいしたいです。

(委員から)

A-1タイプは2階でつなぐ可能性とありますが、結構長くなりませんか。

(計画支援)

小学校の新校舎をもう少し北側に配置して、施設でつなぐような設計をすることはで

きると思います。小中一貫という中で交流が大事だということを含め、設計提案を求めることになると思います。

(委員から)

A-2-①と②の違いは、校舎の配置が北側か南側かが一番大きいと思うのですが、前回の委員会で、現在の北側校舎、南側グラウンドというのがすごくよいという話があったかと思うのですが、そこまでこだわるべきところがあるのでしょうか。

(計画支援)

校舎の北側になる部分をできるだけ減らすという意味では、北側に校舎があるということにはメリットがあります。校舎をグラウンド側に建設し、東西に長く配置することもできるが、その場合、校舎の北側になる部分は増えるということもあります。

(委員から)

A-2-①と②の違いは、工事中に現在の校舎を利用するか、仮設校舎を使うかの違いだと思います。

(委員長から)

A-2-②は、仮設校舎を図の下の方につくるのだけでも、最終的には北側に新校舎ができるということです。A-1 タイプだと、中学校を改築する場合は現在のように北側に新校舎ができるということですよね。

(計画支援)

A-1 タイプの場合、将来中学校校舎を建て替えるときには、小グラウンドの位置に建設することが考えられます。小グラウンドの位置に仮設校舎を建て、北側に中学校の新校舎を建設することもできるため、将来の中学校改築にも2つのタイプができます。

(委員長から)

イメージ図にも書かれていました。校舎の向きや北側を空けるかという点で、どこに校舎を建てるかという問題が出てくると思う。

(委員から)

教室は南向きなのが普通の学校のつくり方だと感じます。A-2-①タイプについても、この校舎は、仮の形だと聞いたので、南側に教室ができるかたちに設計していただければ、問題ないのかなと考えました。

(委員から)

A-2-②タイプについて、新校舎でも北側の配置を守るために、一度、南側に仮設校舎をつくって、また北側に戻るということで、北側の配置を守るならA-2-②にこだわる必要があると思った。校舎の向きではなくて北側の配置が重要なのかというところが気になりました。

(計画支援)

普通教室の向きは、最近ではあまり言われなくなってきましたが、寒い地域では南向き等で明るく温かい教室ということがよくいわれます。学校は午前から午後の早い時

間が主な活動時間となるので、一般的には東向き、あるいは南向きの教室がよいとされています。設計に示す条件としては、南向き等で明るい教室をつくるということを示していくということだと思います。いずれにしても基本計画段階でのテーマになると思います。

(委員長から)

そうすると、現在の中学校を使いながら小学校を建設し、将来中学校をつくるか、それとも、同時に小学校と中学校をつくるか、というところになってきたかと思います。先ほどの話だと、やはり小学校と中学校を同時につくるべきだという話があったと思います。予算上のリスクはないのですか。

(事務局)

そのような方向性で言われた場合も、町としてどうしてもできないという可能性はあると思っています。

(委員長から)

そうすると、整備委員会としては、同時に小学校と中学校をつくるということをお願いしたいが、予算との関係でどうしてもできない場合には、A-1 タイプで進めていただくという言い方はあり得ますか。

(事務局)

現在の河北中学校の位置につくるということは見えるので、そのような言い方はあると思います。

(委員長から)

いろいろな要素が入ってきているので、絶対にこれをお願いしたいということは、なかなか難しい中で、段階的な要望をするということが出てくるのであろうということだと思います。

(委員から)

やはり町の財政面ということがあると思います。河北町の財政規模以上のものがかかるとなると、即できる A-1 タイプだと思います。先ほどの話にあったように、耐力度調査の点数が下がるのを待って、中学校を新しく建設していくというのが、一番目指しているところに令和 13 年度開校ということがあるわけですから、まずは A-1 タイプが、進めていける方法ではないかなと思います。本来なら、将来の河北町の子供たちのことを考えるなら、B タイプで新しい敷地に検討して、まるっきり新しくしてもらえば、なお結構なのではありますが、それもまた、難しい問題がでてくる。要望としては、すぐに建設するなら A-1 タイプ、是非検討をお願いしたいのは A-2 タイプに絞って、進めていただければというのが、私の個人的な考えです。

(委員長から)

ありがとうございます。まさに、現状を見極めながらのご意見だったと思います。

(委員から)

これからの子供たちに残すということであれば、お金がかかるということを考えると、先ほど言われたかたち（すぐに建設するなら A-1 タイプ）にならざるを得ないのかなという気持ちでいます。

小学校に別件で行ったときに、ちょうどプールの時間で、子供たちがワイワイとプールに入っている授業を見ました。中学校の敷地になるときに、町民プールを使うということになっていますが、プールをなくしても授業に支障はないのでしょうか。

（事務局）

プール自体は、授業があるので無くせないのも、町民プールを活用して授業を行うという考えです。町民プールは深さがあるので、その対策は必要だと思っています。

（委員長から）

屋内と屋外のプールがあって、スペース的には十分使えるということで、ただ、大人用なので、少し配慮が必要であろうということです。学校のプール授業は行えるということだと思います。ちなみに、新しく建てている学校では、町営プールに移行しているところが多くあります。

（委員長から）

これまでのところを少しまとめてみますと、資料 1 の P2 にある第二回整備委員会の意見に沿った流れで、意見が出されてきたかと思います。校地面積、令和 13 年度開校、予算という点を踏まえ、河北中学校の敷地につくるということです。その際、町の財政面などははっきりわからないけれども、まずは小学校を河北中の敷地内に設置し、中学校は現校舎を利用しつつ、将来的に改築に向けていくということ、ただ、予算が許されるなら、小学校と中学校を同時につくるという方向で要望するという流れであったと思いますが、このような意見のまとめでよろしいでしょうか。

（委員一同）

〔特に意見なし〕

（２）整備コンセプトの検討について

（計画支援） 資料 No.1 の河北町小中学校整備の基本コンセプト（素案）について説明

（委員長から）

基本コンセプト（素案）ということで説明がありましたが、いかがでしょうか。

（委員から）

1 番目なのですが、「小学校・中学校 9 年間」だと、義務教育学校のようなイメージが強いので、例えば「小学校 6 年間」、「中学校 3 年間」、「合計 9 年間」など、少し文章は長いのですが、小中一貫校ですが義務教育学校ではないという感じがよいと思いました。

（委員から）

9 年間の学びだと義務教育学校のイメージだから、小学校、中学校という独立した感

じに変えるということであろうと思います。

(委員から)

5 番目の、「安全安心で災害に強く、誰もが集う学校」というところで、やはり中学校の老朽化があるのでどうかと思います。これからは災害時に避難所になるということを考えれば、予算的なところもありましたけれども、「安全安心で災害に強く、誰もが集う学校」に結びつけ、思い切り新しくした方がよいのではないかと思います。

(委員長から)

5 番目は非常にインパクトがある。前回ハザードマップ上で、いわゆる安全な学校が河北中学校であるという観点から出てきたところかと思いますが。今のご意見は、校舎の老朽化は危険でもあるということで、できれば小学校と中学校を同時に改築したほうがよいのではないかというご意見です。

(委員から)

この 5 つの目標は、うまく集約されていると思いますので、この目標を示すことについて、よろしいと思います。

(委員から)

「何のために学ぶのか」と考えたときに、将来の自分の夢に向かって学んでいくと思うので、「自分の夢の実現をする」とか、「自分の未来に近づく」というような言葉もほしいと感じました。

(委員から)

3 番の「特性に応じ、様々な学習の場・居場所を選べる環境」について、様々な子どもたちの「個性を伸ばしていく」ということが大事だと思うのですが、図工室が 1 つだけでは、少ないのではないかという気がするのですが、もう少し余裕がないといけないのかな、と思います。

(計画支援)

教室数については、基本計画で検討していく内容ですが、特別教室数は、文部科学省の授業ごとの標準時数と想定学級数をもとに、その教科の授業が 1 週間で何コマあって、1 つの教室を使える時間数に対して、足りているかという計算をもとに仮の数値を入れています。単に教室数を増やすのではなく、教科等横断的な学習が行える教室をつくり、多様な活動を受け止める空間をつくるというような考え方もあります。こういう教育をしたいということで、教室数を増やしたいということを含め、次回以降の整備委員会でご意見をうかがいながら整理していきたいと考えています。

(委員長から)

先進地視察先の学校を見て、あそこは場所にこだわらないのです。そのようなことも参考にしながら、膨らませるところは膨らませながら、ということだと思います。

(委員から)

2 番目のところで、「子供と教職員が」とありますが、ここに「地域の方々」と入れた

ほうが、よいのではないのでしょうか。

(委員長から)

子供と教職員というところに、これからは「地域」ということが求められるということで、これも受けとめて検討いただければと思います。

それでは、この案をもとに、今の意見を踏まえて、よりよいコンセプトにして、次回には改めて提示されると思いますので、よろしくお願いいたしますと思います。

(3) その他

(委員から)

想定児童生徒数と想定学級数を教えてほしい。

(事務局)

令和 13 年度の想定として、小学校は 401 人、中学校は 332 人、あわせて 733 人を想定しています。学級数については、小学校は 15 クラス、中学校が 10 クラス、特別支援は今のところ具体的には想定していません。

7 その他

(事務局)

大変ありがとうございました。これまで 3 回の整備委員会と視察をしてきました。これについて、議会と教育委員の皆様には報告をし、意見をいただきたいと思っています。次回は基本コンセプトと基本構想の部分が少し厚く出てくると思っています。

細かいところも検討して基本計画になっていきますので、次回は基本構想のより深い部分の議論をお願いしたいと思っています。先ほどの財政的なところについては、財政部門と慎重に検討したいと思っています。現在、第 8 次総合計画の後期計画の策定中であり、町の財政計画を立てる時期でもございます。財政的なところについては、内部で検討を進めさせていただきたいと思っていますので、ご理解のほう、よろしくお願いいたします。

8 閉 会